



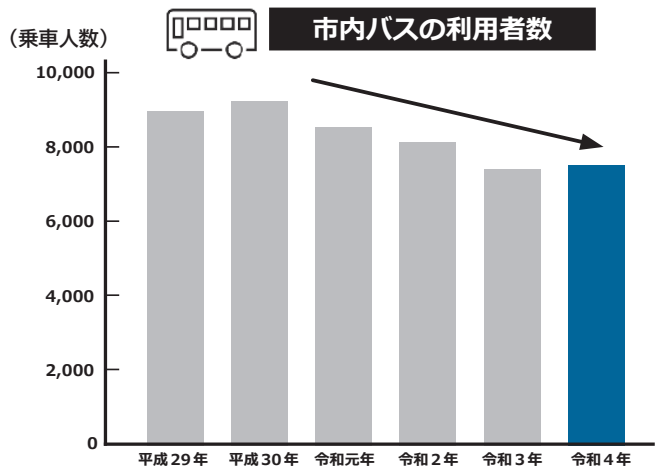
特集

未来へつなごう、 地域公共交通の今



苦しい地域公共交通の現状

みなさんは最近、バス、タクシーを利用していただけますか。伊佐市内の地域公共交通では新型コロナウイルス感染症が5類になって以降、少しずつ利用者の数は戻りつつありますが、依然として厳しい状況が続いています。また、そういった状況に追い打ちをかけるように人口減少、高齢化の進む本市ではドライバー不足も深刻化しています。このままの状況が続くと地域公共交通の存続に影響を及ぼしかねません。この特集では、私たちの暮らしに欠かせない存在である地域公共交通の必要性について改めて考えます。

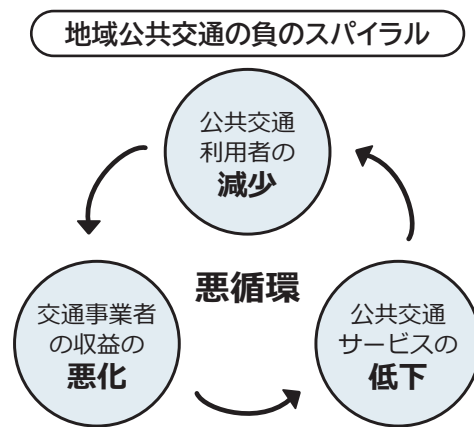


地域に欠かせない公共交通を守るために

本市では、平成22年度に策定した「伊佐市地域交通総合連携計画」に基づき、公共交通に対するニーズに合わせ運行を維持してきました。

しかし、少子高齢化や人口減少等による公共交通利用者の減少や運転手不足の深刻化により、公共交通の維持は容易ではなくなっています。また、大口地区市街地に新たな商業施設が開業する一方で、周辺地域ではスーパーや医療機関の閉鎖がみら

れるなど、市民生活に影響を及ぼすさまざまな動きがありました。さらに、学生や高齢者、障がい者といった交通弱者に対し交通手段の確保は今後さらに深刻な問題となること予想されています。



一方で、地域における移動手段の維持・確保は、交通分野の課題解決にとどまらず、まちづくり、観光振興、健康、福祉、教育、環境等のさまざまな分野で大きな効果をもたらすことが期待されています。

そのため、本市の公共交通の現状等を踏まえ、まちづくり、医療・福祉及び観光振興等の多角的な観点か

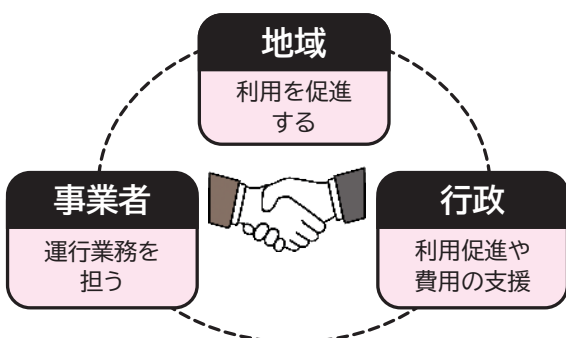
地域公共交通は街の血液

「学校に行こう」「病院に行こう」「買い物をしたい」といったように、人が何かをするには移動が伴います。地域の人々の移動が活発になれば街はうるおい、魅力の向上にもつながりますが、反対に停滞してしまつと、街全体が衰退していきま

す。そうした流れを作る地域公共交通は人間で例えると血液のような重要な役割を担っているといえます。

三位一体となって守ろう

お住まいの地域の将来を考え、「自家用車」と「地域公共交通」の使い方を見直してみる必要があるかもしれません。利用者が減少し続ける中、事業者の努力や自治体の財政支援にも限界があります。地域公共交通の未来は「今」の私たちの行動にかかっているといえます。一人ひとりが、日常生活の中で地域公共交通の利用を考えていくことが大切です。



事業者が抱える「2024問題」

「2024問題」は、ドライバーに対して「時間外労働の上限規制」が適用されることで発生する諸問題のことで、物流業界を中心に大きな波紋が広がっています。

バス・タクシー業などは、労働が売上に直結する労働集約型産業であるため、労働時間の削減は、企業の売上や利益の減少、ドライバー個人の収入も減るといふ問題があり、離職につながる可能性も懸念されます。

事業者の声

市内の交通事業者は厳しい状況のなか、地域に欠かせない公共交通を守っています。伊佐市内にある2つの運行事業者に現状を伺いました。



◎伊佐交通観光株式会社
代表取締役 古田 勇樹さん

現在、日中の利用者数はコロナ禍よりはだいぶ回復しましたが、夜間の利用は年々減少しているように感じています。一番の悩みはドライバー不足・ドライバーの高齢化です。また2024年4月からはドライバーの拘束時間などの改正があり営業時間の短縮やどこかの時間帯の人員を減らすなどの検討をしなければなりません。

ドライバー不足は、お客様を待たせてしまったりサービスの質の低下や、ドライバーのひとりあたりの負担が大きくなることで労働環境の悪化にも繋がりがねません。現在の勤務時間はシフトで管理していますが、できるだけ希望する時間帯で勤務できるように調整しています。短時間勤務や月に数回の勤務などの今までにはなかった働き方を考え取り入れていきたいと思っています。ドライバー不足が解消されていけば、買い物付き添いなどより地域に密着したサービスを提供できるのではないかと考えています。車を持たない人にとっては地域公共交通が必要です。みなさんの生活を支えるために私たちにできることをしっかり取り組んでいきます。



◎有限会社下小菌タクシー
代表取締役 下小菌 充さん

コロナ禍前と比べて利用者数は7割程度まで持ち直してきてはいますが、依然として厳しい状況が続いています。日中は病院への通院や買い物で利用される人が多く、同じ時間帯に要請が集中し、運行している車両だけでは対応できないといった、ドライバー不足も問題となっています。また、2024年問題により一日の運行時間を確保するために勤務時間や営業時間の変更など問題解決に苦慮しているのが現状です。

とはいうものの良いサービスを提供するには人材確保を含めた事業者努力が必要不可欠です。伊佐市だけでなく県内外への募集案内、Uターン・Iターン組など土地勘がない人でも安心して業務ができるような配車システムの導入、行政及び自社からの二種免許取得費用の助成などさまざまな取り組みを行っています。どのようにしたらタクシーの魅力が伝えられるか。また、タクシーという業を通して地域に、社会にどのような貢献ができるか。これからも突き詰めていきたいと考えています。

＼ここが知りたい！
Q & A

- Q.1 タクシードライバーにはどのような魅力がありますか？
Q.2 これからの担い手に一言



黒江 三郎さん (75)
勤続 13年

A.1 高齢であっても仕事ができることは魅力的です。現に私を含め60歳以上のドライバーも多いです。また、給与面でも働いた分だけしっかり評価されるのはこの業界の良いところだと思います。ちょっとした親切でお客様に喜んでいただけることはとても嬉しいです。

A.2 とても魅力のある仕事ですので、若い人にもどんどん活躍してもらいたいです。近年は観光客も増えていますので、伊佐市の風土・歴史的なことを説明できると仕事の幅も広がると思います。



庄屋 征夫さん (78)
勤続 48年

A.1 お客様とのコミュニケーションです。たくさんの方との接点を持てますので、世間話を含めいろいろな情報を共有することができます。また、昔と違い配車システムが確立されているため流し運転がなく、時間に余裕が持てるのも魅力の一つだと思います。

A.2 親切心、やる気があればどなたでもできる仕事だと思います。住民にとって大切な公共交通を一緒に守りましょう。



伊佐市では、市内を運行する公共交通事業者に就職を希望する人を対象に、2種免許取得のための費用助成を行っています。詳しくは、地域振興課（☎29-4113）までお問い合わせください。

地域振興課地域資源活用係 島廻 京平さん